

地域連携と活力ある委員会活動の実際

地域の民生委員、町内会、地区社協、老人クラブと継続的な交流活動を行っている。地域展開プロジェクト委員会を立ち上げ、その方針に沿って、地域ケア会議、行事の協働、防災活動、近くの砂丘清掃、研修見学の受け入れなどの活動をしている。地域住民と施設の一体感の構築に加え、職員の意識の向上にも繋がっている。

鳥取県

社会福祉法人

こうほうえん

〒680-0001 鳥取県鳥取市浜坂228-1 (いなば幸朋苑)
TEL: 0857-23-6611 FAX: 0857-23-6613

○法人設立年／昭和61年

○法人実施事業

- ①経営施設数合計：96事業
②経営施設・事業【種別毎の数】：
特養…7、老健…3、ケアハウス…5、生活支援
ハウス…4、高優賃…2、保育所…5、リハ病院
…1、デイサービス…17、訪問介護…4、訪問
入浴…2、訪問看護…3、訪問リハ…1、デイケ
ア…4、ショートステイ…10、特定施設…5、
福祉用具貸与…1、グループホーム…8、居宅介
護支援事業…6、小規模多機能型居宅介護…3、
介護予防支援事業…3、知的障害就労支援施設…
1、介護予防拠点…1

○法人の理念・経営方針

【理念】

私たちは、地域に開かれた、地域に愛される、
地域に信頼される「こうほうえん」を目指します
【基本方針】

私たちはサービス業のプロとして、正しい情報
を伝達し、自分が受けたい保健・医療・福祉サー
ビスの、提供・改善に努めます

○取り組みの法人での位置づけ等

地域のニーズの収集、地域への貢献、地域との
協働を目的とした委員会活動の一環として実施し
ている。

○取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

いなば幸朋苑

【施設種別及び利用定員】

老人保健施設…100名、特別養護老人ホーム…
50名、デイサービス…30名・20名・
35名・12名、デイケア…37名
ケアハウス…50名・41名、特定施設入居
者生活介護…29名、生活支援ハウス…20
名、グループホーム…9名
地域密着型デイ…15名

○活動内容

- ◇活動開始年：平成19年4月
- ◇活動の対象者：地域の高齢者、住民、利
用者、民生委員、地区社協など
- ◇活動の頻度・時間（月1～2回、1回あ
たり1～2時間）

活動実施の背景、実施にいたった理由

いなば幸朋苑では平成19年4月、理念の実行と地域との連
携を深める目的で、各部署の中核となる相談員・主任・介護
支援専門員9名のメンバーで、地域展開プロジェクト委員会
を立ち上げた。委員会は、毎月1～2回開き、地域との密着
度を高める仕組みを構築し、信頼関係を築く活動を始めた。
地域展開プロジェクト委員会の3つの方針（地域に貢献、地
球との協働、地域のニーズ）に沿って活動した結果を報告す
る。

〔いなば幸朋苑の方針〕

- ①公民館、包括支援センター、訪問看護ステーション、各
病院に出向き幸朋苑を説明
- ②地域清掃活動への参加
- ③ボランティア、家族会の方に運動会、秋祭りの企画運営
に参加してもらう
- ④消防団、自主防災会との連携体制の構築
- ⑤認知症サポーター養成講座の開催
- ⑥上記活動で得た地域のニーズを整理・共有する仕組みの
構築

実施内容

- ・鳥取市の介護事業所マップを作成し担当エリアを決め、い
なば幸朋苑のパンフレットを公民館や地域包括支援センタ
ー等に配布した。
- ・鳥取砂丘一斉清掃（年2回）、砂丘除草ボランティア（年
1回）に平成19年度は延べ86名、平成20年度は延べ105名
が参加した。
- ・地域のニーズを収集し「災害時における要援護者の一時避
難のための施設利用に関する協定書」の締結をした。
- ・城北地区の住民が、支えあう組織を作るため、年3回、い
なば幸朋苑と城北公民館で福祉講座と介護食の調理講習を
行った。講座終了後に修了証書が渡された。延べ61名が修
了した。
- ・中ノ郷地区と合同研修会を行い、民生委員、ケアプランセ

ンターいなば幸朋苑、地域包括支援センターとの情報交換と連携を図った。延べ20名の参加があった。

- ・グループホームは、あさひヶ丘町内会に入り、納涼祭や敬老会など地元の方と交流を持つ様になった。平成20年度には町内会の副会長に職員が就任した。
- ・地元住民の施設見学（民生委員、社協、愛の輪協力員、福祉委員、一般の人）を受け入れた。一昨年12月に民生委員の交代があり、福祉の知識と技術の研修を実施した。延べ120名の参加があった。
- ・認知症サポーター養成講座を開催した。
（参加対象は、特養家族会、福祉理美容師、送迎タクシー運転手、ケアハウス入居者・家族）延べ59名の参加があった。
- ・小規模多機能は、町内会に入り、市一斉清掃、地区運動会、廃品回収、公園草取り、総会に参加した。

活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

- ・中ノ郷町内会との合同防災訓練の実施により、地域住民と施設との一体感が芽生え、お互いが協力し合える環境が育ちつつある。
- ・砂丘清掃活動により職員のボランティア意識が高まり、別のボランティアへ広がった。
- ・中ノ郷地区の納涼祭準備に参加し、幸朋苑納涼祭にも地元の方が参加して協働することができた。
- ・民生委員、地区社協の方と交流ができ、そこから地域ニーズを収集して地域貢献の活動をすることもできた。
- ・福祉モデルである城北地区に随時、講師の派遣をしている。

今後の課題及び展開

- ・中ノ郷町内会と防災協定を結び防災訓練に参加しているが、施設独自の自警団を作り、防災訓練をしていきたい。
- ・民生委員、社協、愛の輪協力員、福祉委員は要援護者にどの様に関わっていけば良いのか迷うこともあり、地域福祉の向上に今後どの様に協力していくか、いなば幸朋苑ができることを地元の方に発信して、社会資源として活用してもらい、地域福祉ネットワークを構築して拠点と

なりたい。

主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員
（職種等：職種等：医師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士）

